

令和7年度学校評価

本年度の 重点目標	1 規範意識の高揚 生活指導・道徳教育の充実 2 学習習慣確立 学習指導の充実、授業改善の推進 3 環境の美化 学校環境の充実 4 教員の多忙化解消		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
管 理 職	1 業務の見直し 2 長時間労働の抑止	1 分掌による業務の偏りを平準化を目指す。 2 普段は19時15分、定時退校日は17時30分の施錠を目指す。	1 教頭と主任との連携を密にすることで業務の再配分を行う。 2 日頃から声掛けをすることにより、在校時間の削減を目指す。
教 務 部	1 基礎学力の定着 2 観点別評価の検証	1 授業研修期間やその他の機会を利用して授業改善を行う。また、成績不振者に対しての指導の充実を図る。 2 評価のためではなく指導のために観点別評価を活用する。	1 特にタブレットを活用した授業について共有し、授業改善を図る。 2 評価・評定の算出方法についても検討する。
総 務 部	1 創立50周年記念式典の実施 2 確実な情報の発信	1 PTAおよび同窓会と連携し、出席者の心に残る創立50周年記念式典を実施する。 2 外部への情報発信に加えて在校生保護者に向けた情報伝達を強化する。	1 教職員・生徒に周知し、学校全体で取り組む体制を整える。 2 きずなネットやホームページを活用し、特に奨学金関連の連絡を確実にを行う。
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立 2 学校安全の推進（交通事故の減少、情報モラル意識の向上） 3 生徒指導規定の見直し	1 登校指導では、制服の標準的な着こなしを指導しながら、正門前で交通整備、遅刻指導を実施する。 2 交通事故の防止、情報モラルの向上、薬物乱用の防止など、わかりやすい啓発方法を工夫する。 3 継続的に生徒会執行部、教職員との意見交換を実施し、多角的な視点で見直しを実施する。	1 様々な場面で時間を守り、身だしなみを整える等の基本的な生活習慣が身につくよう指導する。 2 掲示物や配付プリントを通して啓発活動を行う。情報モラルについては、使用マナーも含めた指導をする。 3 校則の変更に関しては十分な審議をし、変更後は変更内容の情報共有を徹底する。
進路指導部	1 進路情報の積極的な発信 2 多様な進路希望への対応 3 効率的な業務の引継ぎと質の向上	1 生徒に対して適切な時期に進路情報を伝えるだけでなく、職員に対しても指導に役立つ情報を適宜提供する。 2 進路行事において進学希望者のみを対象にするのではなく、国公立大学や看護、就職志望など、進路希望別できめ細かい指導を行う。 3 将来的な進路指導部員の変更を見据え、記録蓄積体制の構築を行うことで今後の進路指導の充実を図る。	1 面談週間や保護者会など生徒や保護者と直接対話できる期間に合わせて情報を発信する。 2 学年に全体指導においては、進学、就職の両面からアプローチする。 3 進路行事ごとに資料を整理すると同時に、進路指導室の整理に努める。

保 健 部	1 健康課題の早期発見、早期対応 2 生徒主体の美化・保健活動の推進 3 生徒自身の問題解決力の成長を促す相談活動の実施	1 朝のＳＴ時、健康観察を確実に実施する。観察結果の状況を学年会等でフィードバックし、職員全体で健康観察を行う。 2 清掃道具を充実させ、生徒の清掃に取り組む意識を高める。生徒委員会活動を活性化させ、生徒主体で校内美化を図る取り組みを実施する。 3 一つ一つの相談事案に対して丁寧に情報共有、連携しながら相談活動を行う。また、外部機関との連携、協働を図り、生徒が自身で問題を解決できるようサポートする。	1 タイムリーに健康観察結果を把握できるようにする。 2 生徒美化・保健委員会を定期的に開催し、校内美化に対しての生徒の意見を反映させ、生徒主体で美化・保健活動を行えるようにする。 3 スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）、相談室の広報活動を行う。また、関係機関との連携や情報共有にあたっては、守秘義務や情報の取り扱いには十分留意した上で適切に対応する。
生 徒 会 部	1 生徒の主体性を大事にし、行事を通じた実践的な態度の育成 2 学校行事や部活動における生徒の積極性の向上	1 部活動や天翔祭を通じて生徒が主体的に参加できる場を設定する。生徒会執行部を中心に専門委員会などが主体的に立案し、生徒の計画を実際に行動に移せるよう促す。 2 学校行事や部活動において生徒による積極性を高め、教員のサポートの下、生徒自身が積極的に行動できるよう努める。	1 生徒会執行部を中心に委員会活動を定期的に開催し、実際に生徒会執行部と共に教員が運営を助ける。 2 学校行事や部活動に積極的に参加できる機会を与え、より多くの生徒たちとコミュニケーションをとる。
図 書 部	1 学習・資料センターとして快適に利用できる環境作り 2 探究的な学びにつながる図書館利用の促進	1 図書選定、広報活動、環境整備を展開し、資料や環境の充実・整備を進める。 2 新入生への図書館オリエンテーションおよび図書委員会を活用した図書館資料の紹介等の活動を行う。また、各学年と連携して総合的な探究の時間等を活用しつつ、より深い学びのための図書館利用を促す。	1 幅広い教養を身に付けることを第一とし、図書選定を行うと共に、適切な蔵書管理に努める。 2 図書委員会を中心とし、生徒主体の活動の活性化を図る。各学年と連携を密にし、学習段階に応じた探究的な学びの実現に努める。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		管理職、教務部、総務部、生徒指導部、進路指導部、保健部、生徒会部、図書部	